

こりや～鯛したもんだ!

鯛一郎クンだより

発行 有限会社 徳弘水産 代表取締役 徳弘 多一郎 HP <http://taichiro-kun.com>
TEL:0895-28-0248 FAX:0895-28-0956 MAIL:taichiro-kun@taichiro-kun.com

vol. 72

2018年の
テーマ
リ・スタート
RE START



1/23

アービングス松本社長を迎えて

アメリカに滞在されていた松本社長を迎えて普段海にしかいない私たちに最新情報を語って頂きました。それは養殖には関係があるのかって…? ウン!外に出ない分、頭の中をシャッフルするようなそんな話を聞かないと!流暢な松本社長の話にみんな楽しく眠る人なし!オーケー・グーグル!!



2/20 公民館活動

宇和島市内にある公民館の館長さん・主事さんが地元の産業について学ぶ事の取り組みを続けておられるそうです。今回は魚類養殖という事で弊社を訪問して頂きました。魚類養殖全般となるとなかなか時間もかかるので弊社の取り組んでる「鯛一郎クン」について話させて頂いたのですが「男餌」で食べたことがある!という男性がいらっしゃつて「あの頃より旨いね。」って。嬉し~!!皆さんがとても真剣で、力が入っていました。



1/29

ダルマ プロダクションさま来社

都内で8店舗を開設される古賀社長「少しだけ勉強して下さい!」で始まった私のプレゼン。これまで養殖の鯛を沢山見て来られたそうで鯛一郎クンに興味深々。シケの中、沖にも出て見ていただきました。「お店で色々試してみたい!」と社長。「必ず訪問します」と私。ホントに行きますよ～～。



1/30

夢とありがとう

秋川社長率いる松山の元気印「夢とありがとう」。今日は経営方針発表会。社長の熱いトーク炸裂で終了!(詳細はカット、カット!)待望の懇親会には生産者の方々も沢山来られ話を聞くのがとても参考になります。社長!来年も必ず!!

社長ご挨拶 3/26 [Mon]

宇和島は桜が満開!山桜もソメイヨシノもいっぺんに開花し春が突然やってきました。綺麗!!海ではクジラが一ヶ月くらいウロウロと泳ぎ回りイカの横に現れ潮を吹

いたりしています。何かの予兆か?などと騒ぐ人もいますが、お袋に聞いてみると昔はよく見た光景だそう。もうすぐに稚魚が入り忙しい時期がやってきます。何から手を付けていいのやら…若い子たちに負けないように動き始めます。



クジラ!
何かの予兆!?



2/8

認証制度勉強会

魚類養殖に関する認証制度のセミナーを受講しました。SCSAとかMELとかASCとか…認証もいくつかあって、どの認証を取得するのかは自由。でもお金も沢山かかるし最適を選びたい。ヨーロッパではもう当たり前になりつつある考え方方が日本にもジワジワと浸透しつつあります。我々の世界にもやはり必要になってくるかと…持続可能な完全養殖に取り組む!私たちの世界も変わって来て新しい時代に入って来たようです。



2/8

銀座より 「夢酒みづき」さん来社

長いお付き合いを頂いているお店です。店長&料理長やっと来社です(笑)。「銀座の鯛一郎クン」と「宇和島の鯛一郎クン」味の違いはあるの?あるんです!皆さん同じことを言われます。でも仕様がないですよね、長い道中ですもの。ストレスもかかるし扱う人も違うし…3/7のリニューアルオープン、楽しみにしています。



2/21

なだ万さま来社

愛媛県の営業本部のご紹介で「さくらひめ」の見学に来ていただきました。「さくらひめ」とは愛媛県が2015年に品種登録したデルフィニウムという花の名前で、その名を冠したプランディングプロジェクトを立ち上げています。その名を冠して弊社の鯛も扱われます。日本を代表する桜と媛をかけあわせたネーミングが綺麗!羽ばたいて欲しいですね。



2/22

Cicci Fantastico チッチファンタスティコ

東京・芝大門…駅からすぐの場所にあるこのお店。先日お越し頂いた古賀社長さんの展開されているお店です。社長が待って下さりあれやこれやと試作を食させていただきました。「鯛一郎クンでスープがとれます!」凄い!!これは凄い事なのです。鯛一郎クンの本質を見抜いて下さっています。古賀社長と少し何かをやろうとしています。乞うご期待!



編集長だより

寒かった冬が終わり急に暖かくなって来るので山桜とソメイヨシノが同時に咲き誇ります。宇和島の山はピンク色に染まっています。冬から夏へと季節が一変しています。最近は春と秋がとっても短くなってしまったように感じ、世の中の目まぐるしさは季節までもそう感じさせます。桜が咲くとまるで運動会のスタートの合図のように、仕事はピークに向けて猛ダッシュです。すでに鯛たちの恋の季節もスタートしているようです。どうぞ自愛ください。

2/26 代替え魚粉

今年もペルー沖のアンチョビの漁は少ないそう…という事はまたエサの値段が上がるという事ですね。もうそろそろ魚粉に代わるエサが開発されないといけない。獲ったもので魚を育てるのではなくて自分たちで作れる物をエサにして魚を育てる。それがサステナビリティー(持続可能性)。そんな我々の業界を救ってくれるかも知れない…という記事です。早く出てこい代替え魚粉!!